

政策研究大学院大学シンポジウム

「科学と政策をつなぐー政策のための科学の実践に向けてー」開催結果概要

2012年8月17日

政策研究大学院大学

科学技術イノベーション政策プロジェクト

1. 会議概要

日時：2012年8月6日（月）14時～17時

場所：政策研究大学院大学想海樓ホール

主催：政策研究大学院大学

後援：科学技術振興機構研究開発戦略センター

来場者：約220名（内訳：政府機関職員、大学・公的機関職員、産業界、学協会関係者、在京外国大使館関係者等）

2. 内容

本シンポジウムでは、科学技術イノベーション政策における政策決定に関与する政産学官の関係者が、科学と政策との関係について、多様な視点から議論し、科学的根拠に基づき広く社会経済的・政策的課題に対応するための「政策のための科学（Science for Policy）」の実践に向けた制度体制の強化、行動規範の確立、各者の役割と責任など、今後我が国が科学技術イノベーション政策を推進し実践するための基盤について議論を行った。

第一部では、科学者コミュニティ及び産業界の視点から、政策立案への科学的助言の在り方、学術コミュニティからの政策発信、科学技術イノベーション政策の実行に向けて産業界が果たすべき役割などについて講演が行われた。第二部では、政策の形成と実行に関わる、現職の与野党国会議員3名、並びに行政担当者によるパネルディスカッションが行われた。パネリストによる、イノベーション創出に向けた課題、科学技術政策における司令塔の在り方、立法府の観点からの見た諸課題、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」の取組などについての話題提供がなされ、パネリスト同士及びフロア、文部科学省「科学技術イノベーション政策のための科学」推進委員を含む有識者との議論が行われた。（プログラム及び講演者・パネリスト等は別紙参照）

3. 議論のまとめ

- ① 科学技術イノベーション政策について、超党派で議論し政治的合意の下に持続的に推進する必要性。（先行例：「科学技術基本法」、「研究開発力強化法」）
- ② 立法府、科学コミュニティ（技術・人文社会科学を含む）、産業界、行政府、メディア、社会との間で継続的に対話する場を設定し、相互の信頼関係を醸成し議論を蓄積する仕組みの構築。
- ③ 政策形成・実施における、意思決定者と科学的助言者、科学コミュニティの役割・責任分担の明確化と行動規範の確立。
- ④ 「政策のための科学」の推進、人材の育成・確保。実践の場としての公的シンクタンク機能の強化。
- ⑤ 上記の取り組みの基盤となる市民からの信頼の回復に向けて、関係者が最大の努力を行う。

(別紙)

政策研究大学院大学シンポジウム
「科学と政策をつなぐー政策のための科学の実践に向けてー」
プログラム

※敬称略

14:00 – 14:05	主催者挨拶 大山 達雄 政策研究大学院大学副学長
14:05 – 15:05	講演 「科学と政策をつなぐ(1): 科学コミュニティ及び産業界の視点から」 1) 吉川 弘之 東京大学名誉教授、科学技術振興機構研究開発戦略センター センター長 「諸政策立案への科学的助言」 2) 大西 隆 日本学術会議会長 「学術からの政策発信ー学術会議の役割の変化を踏まえて」 3) 中村 道治 科学技術振興機構理事長 「科学技術イノベーション政策の実行に向けて」
15:05 – 15:15	休憩
15:15 – 16:55	パネルディスカッション 「科学と政策をつなぐ(2): 政策の形成と実行の視点から」 モデレーター: 角南 篤 政策研究大学院大学准教授 (1) パネリストによる話題提供・討論 鈴木 寛 参議院議員 (民主党) 「イノベーションの創出に向けて」 林 芳正 参議院議員 (自由民主党) 「科学技術政策の司令塔」 斉藤 鉄夫 衆議院議員 (公明党) 「科学技術・イノベーション政策推進の課題: 立法府の視点から」 土屋 定之 文部科学省科学技術・学術政策局長 「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」の推進」 (2) フロアとのディスカッション (3) コメント 笠木 伸英 東京大学名誉教授、科学技術振興機構研究開発戦略センター 上席フェロー 黒田 昌裕 慶應義塾大学名誉教授、文部科学省「科学技術イノベーション 政策のための科学」推進委員会委員長 城山 英明 東京大学公共政策大学院教授、同政策ビジョン研究センター センター長 (4) パネリストからの応答
16:55-17:00	会議まとめ・閉会 有本 建男 政策研究大学院大学教授